

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	心理検査を活用し、高認合格から進学へ、体験実習から就農へ		
法人名	学校法人 府内学園		
学校名	大学進学予備校 府内学園		
代表者	財前 俊樹	担当者 連絡先	松尾 敏生 097-546-5213
1. 事業の目的			
<p>本事業は所謂ニート・フリーターと呼ばれる若者に対し、就農支援することを目的とする。日本雇用創出機構によるニート・フリーター対象のアンケート（年令15歳～34歳408人中）で、37%（151人）が「農業研修」に興味があると答えているにも関わらず、文科省が農水省等と協働した「フリーター25万人常用雇用化プラン」等においても多くの若者を就農に導こうとしなければならないほど、就農者の急速な減少と高齢化は各域社会崩壊問題となっている。営農法人によると、若手人材は欲しい反面、農業知識のない若者に同法人の方で指導することは難しく、できれば専門学校等で基本知識を身につけてきてほしいとのことである。しかし、農業系専門学校に進学したくとも不登校のため高校すら卒業できなかった若者も多く存在し、彼等の大半が中卒のため、フリーターとなっている。そのような若者に対して進学できるように高認試験受験指導を行い、専門学校進学を可能とし、並行して農業実習も行い就農目標の明確化を計る。なお、就農不適合者及び進路希望変更者に対しては、キャリアカウンセラー2名が他方面への進学・就職を支援していく。本講座終了後、直接就農する者、農業系学校に進学後就業も可能とし、その選択支援もキャリアカウンセラーが支援を行なう。講座開設に当たり、受講者満足度70%、ニート・フリーターと呼ばれ現在、ひきこもり状態の者も多いことを考慮すると、受講者の就職率10%を設定し、50%の者が就業等に向けて何らかの行動を開始することを目指した。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>単なる就農講座としてだけでなく、農業系大学校の進学を視野にいれ高校卒業程度認定試験を、また、途中挫折を阻止するため、支援講座3つを開設している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開設講座数 : 15講座 ●総授業時間数 : 970時間 ●開設期間 : 7月中旬～2月初旬 <p>（内訳）</p> <p><専門分野></p> <p>農業体験講座 130時間</p>			

農業簿記講座 60 時間

パソコン講座 120 時間

<教養分野>

高校卒業程度認定試験講座 480 時間

(国語・数学・世界史・日本史・公民・生物・化学・英語)

<支援講座>

書道講座 60 時間

自己表現講座 60 時間

小物作り講座 60 時間

②受講者の募集方法 (手法・期間・効果)

受講者募集に当たっては、主に下記の方法を用いて行った。

1. 新聞広告 (9月6日の1回掲載)
2. 市内公民館へのチラシ設置
3. 県内全てのハローワークへのチラシ設置
4. 関係NPO・アイネス・サポートステーション・心療内科にチラシ配布・
応募状況は定員40人のところ、27人の応募があり、全員を受講対象者とした。

③受講者の状況

受講者27人の内訳は下記のとおりである。

男性19人、女性8人

年齢層は10代5人 / 20代16人 / 30代5人 / 40代1人

いずれも受講開始時点では定職に就いておらず、アルバイトすらしていない者が大半で、交通費の捻出さえも厳しい状況であった。

④受講者の意識調査等

1 講座に対する満足度を下記A~Fの5つの項目に分け、

①悪かった②あまりよくなかった ③普通 ④よかった ⑤大変よかったの5段階で意識調査を行った。(受講者20名からの回答) その結果、次のような結果になった。

A 時間数	①0	② 1名 (5%)	③ 4名 (20%)	④ 12名 (60%)	⑤ 3名 (15%)
B 講師	①0	② 0名 (0%)	③ 1名 (5%)	④ 5名 (25%)	⑤ 14名 (70%)
C 時間帯	①0	② 1名 (5%)	③ 5名 (25%)	④ 8名 (40%)	⑤ 6名 (30%)
D 設備	①0	② 1名 (5%)	③ 0名 (0%)	④ 8名 (40%)	⑤ 10名 (50%)
E 開催時期	①0	② 1名 (5%)	③ 4名 (20%)	④ 8名 (40%)	⑤ 8名 (40%)
F 全体として	①0	② 1名 (5%)	③ 5名 (25%)	④ 4名 (20%)	⑤ 14名 (70%)

であった。

(F全体)として、④または⑤と答えた者が90%いることから判断すると、概ね良好であったことが示唆される。

⑤受講後の状況 (修了者数・就職率)

修了者数: 13名 (48%)

未修了者：14（途中就職者名を含む）名（52%）/27名
就職者数：6名（22%）（正規就業2名・非正規・4名）
就農にむけて準備を始めた者：3名（11%）
進学を目指し始めた者：7名（26%）
進路未定あるいはひきこもり状況の者：13名（48%）

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

- ① 目標意識（就農）を持せながらの高認受験・専門学校受験指導プログラム開発を行なう。
高認受験にいたらなかった者 3名
合格後、農業大学校をめざしている者2名
- ② NPOを活用した農業系専修学校へ又は就農へのプログラムを開発する。
4つのNPO法人の協力をうけ、就農等に向けた動きを行なうことができた。3名の者が就農に向けて行動を開始し、6名の者（22%）が就職していったことを、考慮すると当初の目標に達していると思われる。
- ③ ニートフリーターと言われる若者が、精神健康度がどのように変化したかを測定する。
精神健康度の現在、大分大学と連携しながら現在解析中である。

②事業の成果及び改善点

成果として

- 1 フリーターの就農教育支援カリキュラムの完成
- 2 就農に向けた関係諸機関との連携
- 3 受講者へ本講座が及ぼす心理的影響の解析

改善すべき点として、受講生の挫折防止が挙げられる。心理面での挫折防止として臨床心理士等によるカウンセリングを定期的に行なっているが、これを拒否する方も多くおり、今後の課題である。

③次年度以降における課題・展開

問題点として次の1,2が学園側として、3,4が受講者側からあげられた。

- 1 受講生募集方法の再検討
- 2 講座途中挫折者の防止方法の検討
- 3 開始時間の再検討
- 4 受講生の交通費問題（自己負担できない者が多い）

本年度の定員（40名）に受講生（27名）充足率67.5%であった。中途挫折者が予想以上に多かった。早い時間からの開始を希望する受講者が多かったが、募集対象地域は県内一円であること、座学においては学園内の教室を使用することを考慮して、農業実習が10時から、座学が午後からと、なった。また、受講生の全員がニート・フリーターのため、毎回の交通費すら出せない状況であった。

④成果の普及

成果内容を冊子にして、関係機関に配布し、その普及に努めた。